

定期作況報告

(平成23年8月20日現在)
上川農業試験場天北支場

I 気象概況

7月下旬から8月中旬までの気象は以下のように推移した。

7月下旬：平均最高気温が22.9℃（対平年比+2.2℃）と平年より高く、平均最低気温が14.7℃（+0.5℃）と平年よりやや高かったため、平均気温は18.4℃（+1.1℃）と平年よりやや高かった。降水量は0.5mm(2%)と平年より少なく、日照時間は73.1時間（145%）と平年より長く、畑地温は25.8℃（+8.4℃）と平年より高かった。

8月上旬：平均最高気温が26.6℃（+3.4℃）、平均最低気温は19.2℃（+2.3℃）といずれも平年より高かったため、平均気温は22.6℃（+2.8℃）と平年より高かった。降水量は3.5mm(17%)と平年より少なく、日照時間は50.3時間（111%）と平年並であった。畑地温は23.1℃（+5.0℃）と平年より高かった。

8月中旬：平均最高気温が24.9℃（+1.7℃）、平均最低気温が17.3℃（+1.6℃）といずれも平年より高かったため、平均気温は21.1℃（+1.7℃）と平年より高かった。降水量は12.0mm(54%)と平年より少なく、日照時間は52.0時間（106%）と平年並であった。畑地温は24.7℃（+7.3℃）と平年より高かった。

以上、この期間を要約すると平均気温の3旬の平均は20.6℃（+1.8℃）と平年より高かった。降水量の3旬の合計は16.0mm（22%）と平年より少なかった。日照時間の3旬合計は175.4時間（121%）と平年並であった。畑地温は24.6℃（+7.0℃）と平年より高かった。

4月からの主気象要素の積算値は、平均気温、日照時間、畑地温は平年並に、降水量は少なく推移している。

a. 気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			3旬平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温（℃）	18.4	17.3	1.1	22.6	19.8	2.8	21.1	19.4	1.7	20.6	18.8	1.8
平均最高気温（℃）	22.9	20.7	2.2	26.6	23.2	3.4	24.9	23.2	1.7	24.7	22.3	2.4
平均最低気温（℃）	14.7	14.2	0.5	19.2	16.9	2.3	17.3	15.7	1.6	17.0	15.6	1.4
降水量（mm）	0.5	31.5	△ 31.0	3.5	20.3	△ 16.8	12.0	22.2	△ 10.2	16.0	73.9	△ 57.9
降水日数（日）	0	4	△ 4	2	3	△ 1	4	4	0	6	11	△ 5
日照時間（hrs）	73.1	50.3	22.8	50.3	45.2	5.1	52	49.2	2.8	175.4	144.7	30.7
平均畑地温（10cm、℃）	25.8	17.4	8.4	23.1	18.1	5.0	24.7	17.4	7.3	24.6	17.6	7.0
最多風向	E			E			WSW					
平均風速（m/s）	2.5			2.3			2.7					

注1）平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。

2）平年値は前10か年の平均より上川農試天北支場作成。

3）降水量、降水日数、日照時間の3旬平均欄は3旬の合計値。

4）△印は対平年値比減を示す。

b. 主気象要素積算値（4月21日～7月20日）

	平均気温 （℃）	降水量 （mm）	日照時間 （hrs）	畑地温 （℃）
本年	1,659	183	537	1,601
平年	1,629	322	593	1,454
比較	30	△ 139	△ 56	147

Ⅱ 作 況

1. 採草型 チモシー（2番草）

作況：不良

事由：草丈及び生草収量は平年並であったが、乾物率が低く、乾物収量は平年の87%にとどまった。生育期間中は高温干ばつ傾向で推移しており、生育が抑制されたと考えられる。また、乾物率の低下は収穫期前の降雨によるものと見られる。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

収 穫 期（月・日）			収 穫 時 草 丈（cm）		
本年	平年	比較	本年	平年	比較
8.17	8.17	0	71	70	1

生草収量（kg/10a）			乾 物 率（％）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
1222	1247	△25	19.2	21.3	△2.1	235	269	△34	87 %

注）平年値は前7か年のうち、平成20年（最豊年）及び平成22年（最凶年）を除いた5か年平均値。

2. 放牧型 ペレニアルライグラス（4番草）

作況：不良

事由：草丈は5cm低く、乾物収量は平年の74%にとどまった。チモシー同様、生育期間中は高温干ばつ傾向で推移しており、生育が抑制されたと考えられる。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

草 丈（cm）		
本年	平年	比較
32	37	△ 5

生草収量（kg/10a）			乾 物 率（％）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
660	871	△211	18.8	19.4	△0.6	124	167	△43	74 %

注）平年値は前7か年のうち、平成18年（最豊年）及び平成22年（最凶年）を除いた5か年平均値。